

2 「D-project 香川 メディア教育研究会 夏季セミナー

～ 主体的・対話的で深い学びを実現する授業デザイン～

- (1) 日時 平成 29 年 8 月 12 日 (土) 9:00～17:00
- (2) 場所 高松シンボルタワー・ホール棟 5 階 第 2 小ホール
- (3) 研修会内容

ア 基調講演

放送大学中川一史教授から、新学習指導要領を踏まえ、主体的・対話的で深い学びに向けた授業改善についての話があった。授業改善のポイントとして、①個々の児童のみとり②学習問題の創り方③方法の児童による試行錯誤④目的意識と相手意識⑤教師の素材との向き合い方が挙げられていた。また、タブレット端末の活用に関しては、導入パターンによって、public（グループ 1 台、一人 1 台でも、共用のもの）と、private（個人持ちや個人に貸与）では、活用できる意味合いが大きく違うことが示されていた。



イ ワークショップ 1

「明日から実践！次期学習指導要領（アクティブラーニング・ICT活用・カリキュラムマネジメント・21 世紀型スキル）授業デザインワークショップ」では、21 世紀型スキルをどのように伸ばしていくか、そのためにどのような授業デザインをしていくことが大切なのか、どのように ICT を活用していくか、考えることができた。

ウ ワークショップ 2

「タブレットを活用した教材配信ツール『マチアルキ』体験ワークショップ」では、「マチアルキ AR アプリ」（東京書籍）を使って、実際に動画を登録する体験をした。マチアルキとは、起動して看板や建物などにタブレット端末をかざすと、登録した動画が再生されるアプリである。GPS（位置情報）と AR（画像認識）により、必要な場所で必要な説明が見えるように設定されており、スタンプラリーのようにグループで説明を聞きながら見学することができる。今回は AR を用いた教材配信の方法や面白さを体験することができた。学んだことを情報発信することにも使うことができ、今後様々な授業の可能性が見えてきた。

エ パネルディスカッション

金沢星稜大学・佐藤幸江教授をコーディネーターに、タブレット端末を用いた授業の普及の方法について、それぞれの考えを聞くことができた。新しい小学校指導要領解説総則編の中に、「情報活用能力は『学習の基盤となる資質・能力』であり、確実に身に付けさせる必要があるとともに、身に付けた情報活用能力を発揮することにより、各教科における主体的・対話的で深い学びへとつながっていくことが期待される」という記述がある。タブレット端末等の情報機器を子どもたちが日常的に活用しながら、情報活用能力を身に付けさせたり、発揮させたりしていくことの大切さを感じた。